

写真提供:おらっちゃ七尾



華

Vol.26

Japan Therapeutic Care Association

発行: 認定NPO法人 日本セラピューティック・ケア協会 発行者: 武藤佐代子 印刷: ビーグ有限会社

今こそ、能登半島地震被災地にお届けしたい心のケア

理事長 武藤 佐代子

突然起こる災害の被災者は、生活の再建や仮設住宅での慣れない生活などにより、緊張や不安で首・肩のこわばりや不眠などの身体症状が表れやすいと言われています。また、災害によって生じるストレスや心の傷は、目には見えにくく、被災された方々の心のケアは後回しになりがちです。

能登半島地震から1年半が経ち、インフラの復興が少しずつ整っていく中で、今こそ私たちは、セラピューティック・ケアの実践を通じて、被災地に「人の温かさ」と「安心」をお届けしたいと考えておりました。

このたび、ありがたいことに公益社団法人 日本フィランソロピー協会よりご支援いただき、同法人が実施されている寄付推進プログラム「フィランソロピーバンク」の事業として、能登半島地震の被災地の支援を行えることになりました。

当事業では、被災者等の心身のケアに資するために、セラピストがセラピューティック・ケアを提供するだけでなく、継続してケアを提供していける態勢づくりを行います。

その第1回目として、6月22日(日)・23日(月)の日程で地元のセラピスト3名を含む7名で七尾市市内の仮設住宅4か所と千寿園 地域交流ホールで被災者の方々にケアをお届けしました。

また、災害支援ボランティアセンター「おらっちゃ七尾」及び七尾社会福祉協議会では被災者を支援する方々にケアを提供しました。被災者の方はもちろんのことですが、

一生懸命ボランティア活動をされている方々にも、感謝を込めて癒しのケアをお届けしたいと願ったからでした。

当協会では、2005年福岡西方沖地震をはじめとして、東日本大震災、熊本地震、北海道胆振東部地震など、これまで20年以上にわたり、被災地に赴き、30回以上におよぶ支援活動を実施してきました。

最初は緊張された面持ちでも、途中から力が抜けてゆったりと身を任せて下さる方、ウトウトされる方など反応は様々ですが、どなたも終わった後は笑顔になっていただけ、心の触れ合いを実感します。

そっと寄り添いながら手のぬくもりで伝える心のぬくもり、セラピューティック・ケアを、私たちが出来る“心の応援”として、今後も継続してまいります。



当協会の被災地支援活動



おらっちゃ七尾にて(2025年6月)



2025年3月18日(火) 活動場所:石川県輪島市応急仮設住宅 三井町第1団地

報告:安藤 美彌子(福岡県支部)

福井・富山・福岡在住の会員4名で、1月の震災そして9月の豪雨災害と、二度の大きな災害に見舞われ、復興に向けて頑張っている皆さんに「手のぬくもりを届けたい」「少しでも元気になっていただきたい」という思いから参加しました。今回は、キリスト教災害支援センター(九キ災)を通して能登地震キリスト災害支援会(能登ヘルプ)のボランティア募集に応募。現地では「LoveEast」のメンバーにお世話になりました。

会場に着くと、仮設住宅の入居者さんが集まって来られ、「LoveEast」スタッフが準備された飲み物や菓子を囲んでの交流のあと、セラピューティック・ケアを体験していただきました。皆さん、手のぬくもりを感じてくださり、「気持ち良かった」「わざわざ遠くから来てくれてありがとう」と喜ばれました。

長い避難生活を送っている方々は、不自由な生活を強いられています。この日は、和やかな雰囲気の中で、ゆったりとした癒しのひとときを過ごしていただくことができました。

小さな活動ですが、これからも能登の方たちに継続的な支援活動を続け、手のぬくもりを届けていけるように心から願っています。



2025年度フィランソロピーバンク寄附金事業

第1回:2025年6月22日(日)・23日(月) 活動場所:石川県七尾市

2025年度は、公益社団法人 日本フィランソロピー協会が実施されている寄附推進プログラム「フィランソロピーバンク」よりご支援いただき、4回にわたって能登半島での支援活動を行うことになりました。

報告:仲村 満恵(北陸ブロック)

福井県あわら市社会福祉協議会と石川県七尾市社会福祉協議会にご協力いただき、七尾市仮設住宅集会所と千寿苑 地域交流ホール(計5カ所)および災害ボランティアセンター「おらっちゃ七尾」でセラピューティック・ケアによるボランティア活動を行いました。

ある仮設集会所でネック&ショルダーケアを受けられた方からの言葉が、強く心に残っています。「奥能登まで行って見たの。仮設住宅がずらっと並ぶのを目にしたら、思い出して怖くなって泣けてきて。最近寝つきも悪いです」「不自由な生活だけど仕方ない、みんな我慢している。なるようにしかならん」これはほんの一部です。

私達ボランティアは微力ではありますが、ほんのひと時でも安らいでいただけるようにと、手のぬくもりに願いをこめてケアを届けてきました。



首から背中にかけて回くこぼっている方が多く、ネック&ショルダーケアが喜ばれる

報告:壽崎美樹(北陸ブロック)

私は3月の能登輪島訪問が初めてのボランティア活動でした。手技が不安でしたが、直前に福井で行われたスキルアップ研修に富山から参加でき、同行の講師からもその都度助言を受けながら施術することができました。3月に続いて6月も参加しましたが、「あたたかくなったわあ」と言っていた時は、とても嬉しい気持ちになりました。

報告:金谷 繫美(北陸ブロック)

避難所で生活されている方々が会場に来られ、施術を受けられた後はその場が和やかな雰囲気に包まれ、「また来て欲しい」との声も多くいただきました。改めて手のぬくもりが人に癒しと安らぎをもたらすことを実感しています。被災された方々がケアを通して得た安らぎをこれからの活力に繋げていただけることを信じて、また参加させていただきます。



浮腫のある方にはレッグケアを提供。短時間で脚が軽くなったと喜ばれる



男性は腰痛を訴える方が多く、腰のケアを希望される方が多い



しっかりとお話をお聞きする時間も大切な支援

「大阪・関西万博」で「Remotouch」が展示されています

理事長 武藤 佐代子

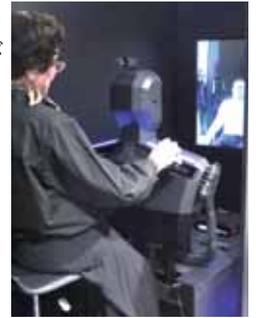
「華」VOL.24で、当協会の技術提供によりトヨタ紡織株式会社で開発されたリラックスシート「リモートタッチセラピー」をご紹介しましたが、その後も研究開発が進められ、このたび「Remotouch (リモタッチ)」と名を改めた第2号機が、大阪・関西万博のNTTパビリオン内の限定公開ブースにて展示されています。

「Remotouch」は人肌のようなぬくもりと繊細な力加減で肩を優しく撫でる動きによりリラックスさせることを目的としたシートです。更に「Remotouch」をNTTの次世代情報通信基盤(IOWN)で接続することで、遠隔地にいるセラピストの手のぬくもりや優しいタッチをリアルタイムで伝えることが可能となりました。

シートに座り、正面のモニターに自分と相手も映し出されることで、遠隔で操作しているにもかかわらず、ぬくもりを感じながら、あたかも後ろで相手に撫でてもらっているような感覚になります。

一般向けには公開されていないのが残念ですが、6月6日(金)には名誉理事長の秋吉も来場し、楠田大蔵太宰府市長をはじめ、当協会顧問である桜美林大学・山口創教授、平田耕路理事、平山正明監事に実際に体験していただくことができました。体験後には「気持ち良かった」「眠ってしまった」などの感想をいただきました。

今後も、新たな心のケアへのアプローチを目指し、さらなる第3・第4の未来型シートの開発を期待しています。



秋吉がリモタッチを操作しながら楠田太宰府市長に施術した



プレスリリースはこちらから

精華女子短期大学 専攻科での取り組み

福岡県支部 水上 尚子

2025年度は12名、明るく元気な学生たちが受講してくれました。授業は15コマで構成され、手技認定試験・実習・筆記試験の合計で卒業時にセラピスト認定証を授与されます。

手技認定試験には、秋吉名誉理事長も来校。授業でセラピューティック・ケアの歴史を教えていましたので、「え?あの秋吉先生が来られるのですか?」と学生たちはドキドキしながらも喜んでいる様子に私もとても嬉しく思いました。

手技が合格すると次は実習です。コロナ渦からまだボランティア再開ができてないところもある中で、「薔薇の樹苑」様には昨年より実習を受け入れていただいています。やはり実習を行うことでより学生の理解が深まり、このケアの素晴らしさを実感していました。



実習後のレポートより

- 痺れがあり会話する事が難しいクライアントだったが、施術をするとリラックスした表情が見られ、非言語的コミュニケーションを実践する事ができた。痺れも施術し苦戦したが、緊張の緩和を感じてセラピューティック・ケアの素晴らしさを実感した。
- 触れるケアが心の距離を縮めるのを実感した。

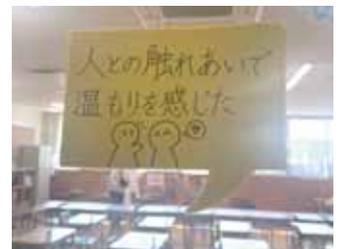
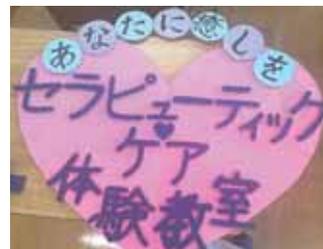
「みんなのひみつきち」に参加しました

福岡県支部 水上 尚子

3月22日(土)、筑陽学園高等学校(福岡県太宰府市)の探求学習で活動した生徒達が企画・運営するイベント「みんなのひみつきち」にて、放送部の企画として声をかけていただき、セラピューティック・ケア体験を提供しました。当日は、放送部の生徒10名が手作りの掲示板や装飾物で会場を演出し、チラシ作成から来校者への施術体験のお声かけまで行ってくれました。

来場者にもまず、放送部が秋吉名誉理事長を取材して「第49回全国高等学校総合文化祭 香川大会」のビデオメッセージ部門にエントリーされた映像作品を視聴していただき、次いで放送部長が簡単に説明され、「では実際に体験してください」と施術コーナーへご案内。小中高生や保護者、地域の方など68名が体験されました。

協会初の高校生と作る空間は、施術する私たちにとっても、心地よいものでした。



台湾の国立台北護健康大学の学生が入門講座を受講されました

福岡県支部 水上 尚子

8月4日(月)に本部事務所にて20代と50代の学生4名が受講されました。相モデルでの施術では、練習を重ねるうちに手技が上達し、リラックスしてウトウト。終了後、20代のお二人は「家族や利用者さんにケアしたい」、50代のお二人は、「とても気持ちがいい」「心に響くケアですね」と感想を述べられました。

講座では、同大学の職員である林(りん)雅文さん(当協会講師)に通訳をしていただきました。林さんとの出会いは2011年。台湾・弘光科技大学の教授だった林さんが、手のぬくもりに感銘を受け、2012年から何度も来福。2017年に台湾第1号の講師が誕生しました。言葉を介さずとも心を通わせることができるセラピューティック・ケアが、今後も台湾で広がって行くことを期待しています。



兵庫県支部が誕生しました

私がセラピューティック・ケアで初めてボランティア活動を始めたのは、ホームホスピス「ひなたの家」でした。約10年前、日本ホスピス・在宅ケア研究会で「ひなたの家」の存在を知ったのをきっかけに、週1回のボランティア活動が始まりました。

セラピューティック・ケアの素晴らしさを私自身がまず実感し、利用者さんやスタッフも感じていただきました。夜勤明けのスタッフに施術すると「とろけそう、副交感神経が優位になっていくのがわかる」と言われました。「自分一人でやっていたのでは限界がある。この素晴らしいケアを多くの人に広めたい」という熱い思いから講師になりました。

講座をする中で、「ひなたの家」のスタッフがボランティアとして利用者さんに提供することで継続性も生まれ、その効果をますます実感してもらえました。特に認知症がある利用者

兵庫県支部長 山崎 妙子

さんに継続したケアを提供すると効果があると感じました。

今では「ひなたの家」以外のボランティアも増え、活動の場もデイサービスや緩和ケア病棟など5ヶ所に増えました。講師になりたいと3名の会員がアシスタントインストラクターになってくれました。皆さんに背中を押され押されて、こまめでやってきました。

兵庫県支部は私が立ち上げたのではなく、皆さんが立ち上げてくれたものです。これからは兵庫県支部として、阪神間の会員とも連携をとっていきたいと思います。



セラピューティック・ケア北海道上陸10周年記念イベント

北海道支部 武藤 佐代子(理事長)

日本でのセラピューティック・ケアの普及を託された1999年から25年が経ち、その種は2014年、北の大地でも芽吹きました。最初は2人から始まった小さな芽でしたが、その後、多くの仲間ができました。そして何よりも、ケアを受けてくださった方々の素敵な笑顔のおかげですくすく育ち、このたび10年の節目を迎えることができました。

そこで昨年、皆さまへの感謝を込めて記念イベントを企画し、9月26日(木)に札幌市社会福祉総合センターのアトリウムにてセラピューティック・ケア無料体験イベントを開催しました。

当日は秋吉名誉理事長を迎え、道内のセラピスト10名が参加して、42名の方々に手のぬくもりをお届けすることができました。

ケアを体験された皆様からは、「手の温かい流れが一定のリズムで、とても心地良かった」「眠たくなり、心が落ち着きました」「とてもリラックスでき、気持ち良かったです」など多くの声が寄せられ、セラピストの励みになりました。

今後も、毎年9月に『セラピューティック・ケアの日』イベントとしての開催を企画し、より多くの方々に素晴らしさをお伝えしていきたいと考えています。



当協会の活動を応援してください!

当協会は2014年7月、福岡県より認定を受け、福岡県の認定による最初の「認定NPO法人」となりました。認定NPO法人は、運営組織や事業活動が適正であり、公益性の高い活動をしていると認められた団体で、1口3,000円以上の寄附者を毎年100人以上集めることが義務づけられています。皆さまの温かいお気持ちを手のぬくもりに変え、一人でも多くの方にお届けできるよう、ぜひ当協会を応援してください!

■お振込でのご寄附

協会HPより「寄附金申出書」をダウンロードしてご送付いただき、下記の口座にお振込みください。
ご寄附専用口座 ゆうちょ銀行 01770-6-166454 (特非)日本セラピューティック・ケア協会
(通信欄に、お名前・ご住所をご明記ください)

*他金融機関からお振込みいただく場合は、

ゆうちょ銀行 一七九(イチナナキユウ)店(179) 当座 0166454
特定非営利活動法人日本セラピューティック

■スマホで応援する ~ソフトバンク「つながる募金」をご利用ください~

ソフトバンクのスマホやPCから簡単に当協会へのご寄附ができます。ソフトバンクスマホをご利用の方なら、携帯電話の利用料金のお支払いと一緒に継続的なご寄附が可能。またソフトバンク以外のスマホからもクレジットカードによるご寄附が可能です。

■皆さまからいただいたご支援の使いみち

当協会では生老病死すべての場面で、手のぬくもりを通して、心のぬくもりをお届けしています。

いただいたご寄附や支援金は、高齢者支援、子育て支援・産後ケア、被災地支援などの公益活動に使わせていただきます。

3,000円以上のご寄附は税控除の対象になります。確定申告を行うことで、ご寄附の最大約50%が戻ってきます。控除を受けるためには、寄附金申出書など所定の手続きが必要となりますので、お住いの市町村にお尋ねください。

詳しくはHP
<https://therapy-care.net/donation/> をご覧ください。



認定NPO法人

日本セラピューティック・ケア協会

心とからだに寄り添う"手当て"

〒818-0125 福岡県太宰府市五条2-6-1-202

TEL:092-928-1546

FAX:092-555-9401

E-mail:info@therapy-care.net

HP:https://therapy-care.net



協会HP



Facebook



Instagram